

## 理事長挨拶

21世紀に入り我が国の社会情勢、人々の生活状況は大きく変わりました。生活が豊かになった反面、諸外国に比べて少子高齢化がすごい速さで進展しています。総人口に占める65歳以上の人口の割合は2036年には33.3%、2065年には38.4%になると言われています。2015年では高齢者65歳以上1人を現役世代2.3人で支えています。2065年には1.3人で支える比率になると想定されます（高齢社会白書）。そうした中、高齢者介護のニーズは益々必要になってきています。社会福祉法人健光園は壽樂園という名前で1949年（昭和24年）に養老施設として始められました。現在では京都市内では2番目に古い老人ホームです。1975年に特別養護老人ホームを開設以来、健光園は常に時代のニーズに真正面から在宅福祉、地域福祉に取り組んできました。しかしながら社会福祉に関する意識も大きく変わり厚生労働省によると行政が措置委託先と認めたところ・社会福祉法人のサービスを利用する（措置制度）から利用者が自ら指定業者を選び契約する（支援制度）へと転換し選択の幅が広がり利用者と提供者が対等な関係が生まれたと説明しています。さらに年々増える高齢者医療や介護の財源不足が大きな課題となっています。もう一つ福祉・介護に携わる人材不足があります。いわゆる労働条件が悪い3K（労働内容が厳しい、不規則な勤務、低賃金・給料が安い）で離職率が高い職場と言われています。そうした厳しい労働環境の中で健光園はこれからも法人の理念である「生涯地域居住」の旗印のもと誰もが最後まで地域社会の一員として自分らしい人生を生き切ることのできる社会を目指して取り組んでまいります。そのためには時代のニーズに合った新しいコミュニティ創りが必要で市民や地域住民の人たちに主体になって頂いて「生涯地域居住」実現のために健光園では職員がしっかりとお手伝いサポートさせていただきます。また「社会福祉事業法」が「社会福祉法」に改正改称され新しい社会福祉の方向性が示され急速に進む超高齢化社会に対応する介護福祉サービスの在り方が求められています。利用者の方が暮らしやすい施設、介護に携わる人たちが楽しく働ける職場・老人介護施設にどうすれば健光園がなるのかを職員が「利他の心・精神」（損得を考えず自己犠牲を払ってでも相手に尽くそうという考え）で利用者のお気持ちご家族のご意見などを伺いながら現場第一主義で健光園を運営していきたいと思っています。皆様方のご支援とご協力宜しくお願い申し上げます。

社会福祉法人健光園理事長 土井春義